

平成30年3月21日
株式会社幹細胞&デバイス研究所
<http://scad-kyoto.com/>

理化学研究所との共同研究のお知らせ

当社は、国立研究開発法人理化学研究所(以下、「理化学研究所」と)と、iPS 細胞を用いた神経毒性評価系の実用化に向けた技術開発に関する共同研究契約を締結し、理化学研究所バイオリソース研究センターiPS 創薬基盤開発チームとの共同研究を実施中ですので、お知らせいたします。

医薬品開発の中止要因として、臨床試験段階においては毒性が占める割合が最も高く、なかでも中枢神経系に対する毒性の比率が最も大きいとされています。主な原因として、ヒト神経系に対する毒性を高い精度で予測できる評価系が未確立である点が指摘されており、非臨床試験で実施可能かつ予測性の高い毒性評価系の確立が急務となっています。ヒト iPS 細胞由来ニューロンを用いた毒性・安全性評価法はこの問題の解決に有効な評価系として、近年大きな注目を集めています。

理化学研究所バイオリソース研究センター(以下、「理研 BRC」)では、様々な疾患の患者さんから樹立された疾患特異的 iPS 細胞をバイオリソースとして提供しています。疾患特異的 iPS 細胞を活用することで培養皿での疾患病態再現が可能となり、疾患メカニズム解明、治療薬候補物質の薬効スクリーニング、あるいは本共同研究の目的として掲げるような神経毒性評価系の実用化等、医薬品研究開発を大幅に加速することができますと期待されています。

当社は、今後も技術の開発と改良に努めるとともに、実用化へ向けた事業化展開を推進することで、「幹細胞がもたらす健康社会の実現」に向けた貢献を進めてまいります。

今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【株式会社幹細胞&デバイス研究所(SCAD)について】

株式会社幹細胞&デバイス研究所(Stem Cell & Device Laboratory, Inc. 略称 SCAD)は、多能性幹細胞関連技術とナノテクノロジー/マイクロエンジニアリングに強みを持つ京都大学発のベンチャー企業です。

当社は、京都大学物質-細胞統合システム拠点(iCeMS)の設立拠点長である中辻憲夫名誉教授らの研究成果を活用する企業として 2014 年に設立されました。設立後に当社が独自に開発した改良技術を加えて、心筋等の細胞デバイスの開発・製造・販売を行っています。緻密に配向制御したナノファイバー上で培養することで多数の細胞を一方向に配列させ、実際の生体内組織に類似した三次元多層構造を自律的に形成させることができます。この当社のコア技術により作製される各種細胞デバイスは高い成熟性と機能性を有することが示されております。

当社は先進的な細胞製品とそれを用いた評価系の提供を通じて、世界中の病気で苦しむ人々に一刻でも早く新薬を送り届けられるように、創薬プロセスの高度化と効率化に貢献することを使命として、技術開発と事業化に取り組んでいます。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社幹細胞&デバイス研究所 管理部門 千秋
TEL: 075-744-1114; E-mail: scad.info@scad-kyoto.com